

校内研修計画

甲州市立奥野田小学校

1 学校課題

本校の児童は、明るく、様々な学習活動や学校行事にまじめに取り組むことができる。30年以上続く伝統の朝マラソンにも意欲的に取り組み、心身をたくましく鍛えている。

学習面においても、今までの研究により、基礎的・基本的な力を着実につけてきていることが明らかになっている。Q—Uの分析から児童の学習意欲も高いことがわかる。

平成26～28年度には『わかる』『できる』を実感できる算数科の授業づくりの研究を行い、算数科においては平成29年度のNRTの結果分析等から、どの学年も全領域・全観点において確実に成果を残していることが伺える。一方、国語科においては、特に「話すこと・聞くこと」が全国に比べ、どの学年も低いことが明らかになった。また、日常の学校生活の中でも、先生や友だちの話を理解する力が十分に身につけていない児童や、自分の考えや気持ちをうまく表現できない児童が見られる。

これらの実態分析から「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な力を高めるとともに、言語活動の充実をはかった授業改善が必要であると捉えた。

2 研究主題

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

～国語科を中心とした「話すこと・聞くこと」の力を高めるための授業の工夫～

3 主題設定の理由

国内外の学力調査の結果から、基礎的・基本的な力は身につけているものの、論理的思考力や説明的表現力に課題があることが明らかになったため、現行の学習指導要領ではとりわけ「言語活動の充実」に改訂の重点が置かれた。言語は、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であることから、論理的に思考し表現する能力として、また、伝え合う能力として、国語科だけでなくすべての教科の基本として位置づけられた。

新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づいて再整理された。また、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

本校では、学校教育目標の「自ら学ぶ子どもの育成」の具現化に向けて、児童の学習意欲を高め、「確かな学力」の育成を目指した授業づくりに取り組んでいる。前述の通り、平成28年度までの3年間、児童が「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業改善を研究し、成果を得ることができた。しかし、国語科においては「話すこと・聞くこと」が全国に比べて低いことが明らかになった。また、各教科を支える人の話を理解したり、自分の考えを表現したりするという基礎・基本の定着が十分でなく、日常生活においても友だちと関わり合って学ぶことやコミュニケーション能力が弱いといった点も見られる。

そこで、今年度の研究を進めるにあたって、児童の主体的な学びを支える思考力・判断力・表現力の育成は、「話すこと・聞くこと」の力を高めることによって図られるのではないかと考えている。また、授業において話を聞き、自分の考えを安心して表現できるようにするには、落ち着いた学級集団づくりも重要となってくる。よって、Q—Uの分析結果などを活用したり、学習過程において、言語活動を意識した授業の工夫をしたりしながら、一人ひとりの児童が自分の考えを広げ、友だちと関わり合いながら、学びを深め、「確かな学力」を身につけられるよう研究を進めていきたい。

4 研究の内容と方法

- (1) 授業研究（研究授業，一人一実践授業，確かな学力育成プロジェクトへの取組，言語活動ハンドブックの活用，甲州市ティーチャーズノートの活用）
- (2) テーマに関わる理論研究
- (3) 「Q-U」の実施と分析・活用の充実

年間校内研修計画

矢崎さつき

研究テーマ	教科・領域	担当者	日程 (授業の時期)			TC要請	
			日	時	備考		
「確かな学力」を育む学習指導に関する研究 ↳国語科を中心として「話すこと・聞くこと」の力を高める授業の工夫	今年度の研究の方向性について		研究主任	4	11	①	
	今年度の研究の概要について ブロック組織の決定		研究主任		27	②	
	「確かな学力」育成プロジェクトに関する取組について 平成30年度「NRT」検査結果分析	集団づくり 国語，算数	研究主任 ブロック長	5	16	③	
	第1回Q-Uの分析 第1回Q-U分析結果の共有化	集団づくり	学級担任 ブロック主任	6	6	④	
	テーマに関わる学習会		研究主任		20	⑤	○
	一人一実践授業の共有化		ブロック長 授業者	7	11	⑥	
	教育課程説明会の還流報告 ※特別支援教育の学習会	各教科 (特別支援)	各教科主任 (コーディネーター)	8	21	⑦	
	ブロック別研究会 (Q-U分析結果に基づく取組の振り返りと2学期の取組の確認)	集団づくり	ブロック長	9	5	⑧	
	一人一実践授業の共有化		ブロック長 授業者	10	3	⑨	
	一人一実践授業の共有化		ブロック長 授業者		10	⑩	
	研究授業の指導案検討	()	ブロック長 授業者		24	⑪	
	研究授業	()	授業者 ブロック長 研究主任	11	7	⑫	○
	第2回Q-Uの分析 第2回分析結果の共有化	集団づくり	学級担任 ブロック長	12	14	⑬	
	研究の成果と課題アンケートについて ブロック研究のまとめ		ブロック長 研究主任	1	30	⑭	
	一人一実践授業の共有化 研究のまとめ 研究紀要作成について		授業者 研究主任	2	20	⑮	
	研究紀要の作成		研究主任		27	⑯	
	研究紀要製本		研究主任	3	6	⑰	